

# 辰巳流 謎解き音声ガイド



## ターナー展

東京都美術館（東京・上野公園）で開催中の「ターナー展」で、俳優の辰巳琢郎さんが音声ガイドの案内役を務めている。テレビドラマなどで演じた探偵役さながらに、ターナー作品の魅力や背景を解き明かす。

「ヴァティカンから望むローマ」＝写真、1820年発表、© Fate 2013-2014＝には、画面右奥の台座にあるはずのラファエロの像が描かれていない。ここから謎解きを始め、自身をルネサンスの巨匠と並べようとしたターナーの野心を読み解く。

「ヴェネツィア、嘆きの橋」（1840年発表）では発表当時、

作品に添えられたという英国詩人バイロンの詩の一節を読み上げ、美しい水辺の風景に秘められた陰陽の対比の意味を明かしていく。

音声ガイドの収録後に、本展に作品を提供したロンドンのテート美術館を訪れたという辰巳さん。

「当時のスター作家だったバイロンの詩とともに絵を展示したり、陳列した後で作品の最終仕上げをしたり、新しいことにチャレンジし続けた画家」と、ターナーへの思いを語った。「初期から晩年までのめまぐるしい画風の移り変わりを、ガイドを聞きながら楽しんでいただければ」と話す。音声ガイドは500円。12月18日まで。

